

項目	観点	教科書名					
		新編 新しい理科(2・東書)	新版 たのしい理科(4・大日本)	みんなと学ぶ 小学校 理科(11・学園)	未来をひらく 小学理科[17・教出]	楽しい理科(26・信教)	わくわく理科(61・啓林館)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	観察、実験などを行い、問題解決の力を養うためにどのように配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の過程を「問題をつかむ」→「調べる」→「まとめる」と、大きく3つのまとまりに分け、学習の流れを示している。 「理科の学び方」では、各学年を通して育成を目指す問題解決の力を示したり、各問題解決の過程を線で結び、見直しをもって活動に取り組んだりすることができるよう工夫されている。 各学年を通して問題解決の力の育成を目指す場面では、写真や台詞を付けた児童のイラスト等を用いて、理科の見方・考え方の例をより具体的に示すことができるよう工夫されている。 巻末には「発表のしかた」や「話し合いのしかた」などの内容があり、児童の表現力を高める活動の参考となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の過程を「見つけよう」→「調べよう」→「伝えよう」と、大きく3つのまとまりに分け、学習の流れを示している。 問題解決の過程が「見つけよう」、「調べよう」、「伝えよう」の項目ごとに色別に表示がされ、問題解決の過程のどこにあたるのかわかりやすい構成になっている。 各学年を通して問題解決の力を育成する場面以外にも、写真や台詞を付けた児童のイラスト等を用いて、理科の見方・考え方を働かせた対話的な活動を中心とした問題解決の活動を意識できるよう工夫されている。 巻末には「理科のノートの書き方」などが示されており、児童の表現力を高める活動の参考となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の過程を「みつけよう」→「調べよう」→「まとめよう」と、大きく3つのまとまりに分け、学習の流れを示している。 「科学の芽で育てよう」では各学年を通して育成を目指す問題解決の力を明確に示すことで、より意識した学びとなり、問題解決の力の向上につながるよう工夫されている。 問題解決の場面では、写真やイラストの児童同士の対話を取り入れたり、途中まで言いかけた対話文を示すことで思考力・判断力に働きかける工夫がされている。 巻末には、「伝える・聞く」、「記録する」等の表現力を高める活動の参考として役立つものとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の過程を「問題」→「観察・実験」→「結論」と、大きく3つのまとまりに分け、学習の流れを示している。 キャラクターのアイコンを用いることで問題解決の過程がわかりやすい構成になっている。 各学年を通して問題解決の力を育成する場面では、台詞を付けた児童のイラストを基に、イラストの教師が視点や考えを整理する場面を取り入れ、ポイントとなる見方・考え方を示している。 巻頭に「ノートのとり方」が示されており、活動の参考となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の過程を8つのステップとして流れを示し、学習が連続的な学びとなっていることを意図した構成となっている。 「理科の学習の進め方」で、問題解決の過程の連続性を意識できるよう図示し、次の問題解決につなげられるよう配慮されている。 問題解決の力を育成する場面では、必要に応じてキャラクターが見方・考え方の例を示し、それぞれの活動での大切にすべき部分を明示している。 必要に応じて児童のノートのように書かれており、これらを参考にまとめ方を身に付けることができるように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の過程を「見つける」→「調べる」→「まとめる」と、大きく3つのまとまりに分け、学習の流れを示している。 各問題解決の過程を線で結ぶことで、学びのつながりを意識できる構成となっており、見直しをもって活動に取り組んだりすることができるよう工夫されている。 必要に応じてイラストの児童が対話する場面を用いたり、マーカーを引いてで目立つようにしたりして、理科の見方・考え方を働かせるポイントを示し、問題解決の力の向上につながるよう工夫されている。 巻末には「かく」、「伝える」等のページを設け、ノートやレポートへのまとめ方、話し合いの仕方が示されており、児童の表現力の向上に役立つものとなっている。
2 内容の程度及び取り扱いについて	理科における見方・考え方を働かせるために、どのような工夫がみられるか。	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭には、領域ごとに理科における見方・考え方を示している。 本編の思考する場面では、主に働かせる理科の見方・考え方を具体的に明示し、理科の見方・考え方を働かせながら問題解決を進められるように構成されている。 キャラクターの台詞などで、理科の見方・考え方を働かせた思考や表現の例を示し、児童が意識的に思考できるように工夫している。 巻末の「1年間をふりかえろう」では、身に付けた理科の見方・考え方を確認できるようにになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭には、各学年で身に付けたい理科の考え方を意識するきっかけとなるような導入を掲載し、児童の興味・関心を高め、理科における見方・考え方を働かせる有用性を実感できるように工夫している。 本編の各単元の導入では、理科の見方を働かせることができるようにキャラクターが着点を示し、問題を見出す力を育成できるように工夫されている。 見方・考え方を働かせて思考する場面では、児童キャラクターの吹き出しで、あえて全文を示さず「・・・」とすることで、児童自身で考える場面を設けている。さらに、登場する児童キャラクターを固定し考え方のつながりや変容を意識できるように工夫されている。 問題を見つけたら、考察したりする場面で、児童が理科の見方・考え方を働かせることができるように、注目する視点が示されている。 理科の考え方を踏まえた観察・実験のタイトルをつけることで、考え方を意識して取り組めるように工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭には、「自分たちの考えを伝え合おう、学び合おう」があり、理科の見方・考え方を働かせて協働的に学んでいくための言葉を示すことで、国語の学習と関連しながら児童が考え方を働かせていくことができるように工夫されている。 本編では、理科における見方・考え方を働かせた児童の発言例に「見方のカギ」「考え方のカギ」マークをつけ、それに対して教師がわかりやすく支援したり、児童の発言を価値付けたりする吹き出しが示されている。児童同士や教師の対話例により、見方・考え方を働かせていくことができるように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の導入では、事物・現象との出会いの絵や写真を示し、各学年の見方・考え方を意識して児童の気付きを取り上げている。 本編では、見方・考え方に視点を置いた児童キャラクターの対話を基に、問題を設定したり実験方法を考えたりしている。 結果の記述は、見方・考え方を意識した言葉で。児童の手書きのように書かれており、身近に感じる工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本編では、吹き出しの言葉に「見方・考え方マーカー」を引き、児童が意識的に理科の見方・考え方を働かせられるように工夫されている。それによって、見方・考え方を働かせることが理科の学習の一部であることがわかるようになっていく。 巻末に「理科の見方」「理科の考え方」というコーナーを設け、各学年で身に付けたい見方・考え方を具体的な場面で示している。また、理科の見方・考え方を働かせることが日常生活でも役立つ場面を紹介し、理科を学ぶ有用感や学びに向かう力を高めていくことができるように工夫されている。 	
3 内容の配列・分量	教材の配列・分量には、どのような特色があるか。	<ul style="list-style-type: none"> 6年には冒頭に生活と環境との関連を学ぶ単元がある。 季節に適した学習配列になっている。 学年の特徴を踏まえ、系統的に学習できるように配列されている。 余裕をもって指導できる分量になっている。 2学期制・3学期制のどちらにも対応できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 6年には冒頭に生活と環境との関連を学ぶ単元がある。 季節に適した学習配列になっている。 各学年相互の関連を図り、系統的に学習できるように配列されている。 理科室を使用する単元が学年間で重複しないように配列されている。 余裕をもって指導できる分量になっている。 2学期制・3学期制のどちらにも対応できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 6年には冒頭に生活と環境との関連を学ぶ単元がある。 各地域の気候に適した学習配列になっている。 A・B区分の関連やつながりを考慮し、系統的に学習できるように配列されている。 余裕をもって指導できる分量になっている。 2学期制・3学期制のどちらにも対応できる。 	<ul style="list-style-type: none"> どの地域でも無理なく学習できる配列になっている。 既習内容を生かしながら系統的に学習できるように配列されている。 理科室を使用する単元が学年間で重複しないように配列されている。 余裕をもって指導できる分量になっている。 2学期制・3学期制のどちらにも対応できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元は季節に応じて設定し単元間の関連付けも配慮しながら学習配列をしている。 既習内容を生かしながら系統的に学習できるように配列されている。 余裕をもって指導できる分量になっている。 2学期制・3学期制のどちらにも対応できる。 	

項目	観点	教科書名					
		新編 新しい理科(2・東書)	新版 たのしい理科(4・大日本)	みんなと学ぶ 小学校 理科(11・学図)	未来をひらく 小学理科[17・教出]	楽しい理科(26・信教)	わくわく理科(61・啓林館)
4 表記・体裁	標記・表現等について、どのような工夫が見られるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・A4サイズ ・配当学年までの漢字を使用し、配当学年以上の漢字については見開き単位で振り仮名をつけて使用している。 ・問題解決の過程をラインでつなぎ視覚的に捉えやすくしている。 ・安全に対して配慮が必要な場面では、その箇所に「きけん」マークと赤文字で強調して示している。 ・児童の実験ノート例が掲載されているので、参考にしやすい。 ・裏表紙にもくじを配置している。 ・単元導入では、興味・関心を高める簡易的な体験や資料性の高い写真を取り上げ、児童が主体的に親しみながら、問題意識を高めることができるよう工夫されている。 ・人物のイラストと吹き出しを使って説明し、写真のポイントを分かりやすく説明している。 ・表やグラフへの整理の仕方を例示し、児童が観察、実験結果をもとに考察しやすいよう工夫されている。 ・登場する児童については、キャラクター、写真ともに男女の数や役割、服装などに偏りがないように配慮されているとともに、車椅子を使用している児童や外国人の児童が活動する様子を取り上げ、人権や福祉への配慮がされている。 ・「ふりかえろう」では、単元の学習内容がまとめられていて、児童のまとめ学習の参考にしやすい。 ・「探検部」では、単元の学習と生活とを関連付ける内容となっている。 ・実験や観察にQRコードがついていて、実験や観察の方法をタブレットで確認することができる。 ・算数科の学習との関連が分かるようになっている。 ・「レツツトライ」では、児童が単元に興味を持てるような内容となっている。 ・デジタルコンテンツが豊富である。 ・単元の内容とリンクするSDGsのマークが記載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A4サイズ ・キャラクターのデザインが、ほんわかしていて親しみやすい。 ・登場するキャラクターが、学年が上がるにつれて成長し、親近感が持ちやすい。(キャラクターは3～6年まで同じ) ・使われている色も文字もユニヴァーサルデザインを採用している。 ・教科書の最初のページに、前年度の復習となる内容が漫画で記載されており、今年度の意欲へつなげやすくなっている。 ・実験や観察の際のポイントが、キャラクターを使って分かりやすく示されている。 ・配当学年までの漢字を使用し、配当学年以上の漢字については見開き単位で振り仮名をつけて使用している。 ・問題解決の過程をマークや色を変えながら視覚的に捉えやすいように工夫している。 ・3年、4年は「わかったこと」、5年、6年は「結論」として扱っている。課題には「？」マーク、わかったことには「！」マークなどが統一して使われ、確認しやすい。 ・安全に対して配慮が必要な場面には、「注意」マークと赤文字で強調して示している。また、具体的な対応策を入れるなど工夫が見られる。 ・実験のポイントや器具の使い方、別の実験方法などの細やかな記載がされている。 ・学んだことにかかわる資料、学んだことを深める内容、発展的な内容についてマークを付して記載されている。 ・算数科や生活科、他教科で学ぶことについてマークを付して、関連性が分かるようになっている。 ・中学校の学習内容にあたる資料にマークを付している。 ・「環境」マーク、「伝統」マーク、「技術」マーク、「防災」マーク、「英語」マーク、「仕事マーク」などを設定し、単元の内容とそれらとの関連に気付けるようにしている。 ・巻末に理科ノートの書き方を掲載し、児童や教師が参考にできるようにしている。 ・デジタルコンテンツが充実している。3年から6年までの内容が見れ、復習や予習に使うこともできる。 ・単元の導入では、キャラクターが「理科の見方」を働かせて着目する点を示し、「理科の見方」を働かせて問題を見いだす力を育成できるようにしている。 ・人物のイラストと吹き出しを使って考え方や観察・実験のポイントを示している。 ・ポイントをおさえやすい写真やイラストを数多く掲載し資料を充実させている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の過程を大きな見出しで示し、視覚的に捉えやすくしている。 ・器具や薬品の取り扱いで事故のおそれのある箇所には、注意マークを載せるなど、危険防止に注意をはらっている。マークやキャラクターを使用し、視覚的に捉えやすくなっている。 ・その単元や活動で育てたい「資質・能力」について、マークを付して視覚的に捉えられる工夫がある。 ・「自然を大切にするために気を付けること」、「学んだことにつながる資料」、「さらに調べたり作ったりすること」、「学びを生かす活動」、「整理して考えたり、プログラムを作ったりする」などのマークを設定している。 ・中学校で学習することや、発展的な内容について、「はってん」マークを付している。 ・単元の導入で、児童の興味・関心を引き出す写真を取り上げるとともに、単元の学習の見通しがもてるよう小単元ごとの学習内容の写真が効果的に配置されている。 ・人物のイラストと吹き出しを使って疑問や学習ポイントを分かりやすく示している。 ・登場する児童については、男女バランスよく掲載されており、それぞれの子供が男女平等で協力し合いながら学ぶ姿が掲載されており、ジェンダー、人権などへの配慮がされている。 ・理科の学習を「冒険」に見立て、学習のポイントをモンスターとして、学習の中でモンスターに出会えるようになっている。 ・実験の方法をQRコードで確認することができる。 ・各単元に関連するSDGsのマークがついていて、SDGsを意識できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な用語については太字で強調しマーカー処理されている。当該学年の配当漢字については、単元初出にふりがなを付けて使用している。 ・問題解決の流れは、キャラクターのマークを使用し、視覚的に捉えやすいように工夫している。 ・資料や注意点などは色や形に工夫し、意識しやすいようにしてある。 ・安全に対して配慮が必要な場面では、その箇所に「注意」マークをつけて具体的に記述し、安全に活動できるよう配慮されている。 ・問題解決の過程に統一感をもたせ、マークやキャラクターを使用し、視覚的に捉えやすくしている。 ・算数科で学ぶことについて、マークを付して、関連性が分かるようになっている。 ・学習に役立つ資料、学んだことに関係のある身のまわりの話、さらに詳しく調べるための観察や実験の例、発展的な内容についてマークを設定し、掲載している。 ・児童の実験・観察ノート例が掲載されており、児童や教師が参考にできるようにしている。 ・「科学の窓」では、発展的な内容や中学校と関連した内容が掲載されている。 ・学習前のキャラクターの発言と、学習後のキャラクターの発言を通して、学習内容を確認することができる。 ・単元の導入において、登場人物の吹き出しを利用して、疑問を示し、学習意欲を喚起する工夫が見られる。 ・人物のイラストと吹き出しを使って育成する資質・能力に関する支援が表現されていたり、観察・実験のポイントを分かりやすく示したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に「理科の学習の進め方」として、問題解決の流れを示している。 ・巻末に次年度の学習内容を記載している。 ・安全のために注意が必要な場面では、赤で「！注意」マークをつけて具体的に記述し、安全に活動できるように配慮されている。 ・学習の資料、理解を深めるための観察・実験、ものづくり、発展的な学習などにマークを付けて掲載している。 ・読み物資料を豊富に掲載し、学習したことをもとに、読んだり調べたりすることにより知識、理解を深められるようにしている。 ・単元の導入で、児童の興味・関心を高めるために日常生活場面の写真が取り上げられている。 ・人物のイラストや写真が児童の自然の事物・現象に関心を高めるよう示されている。 ・「ふりかえろう」では、学習内容がまとめられているノート形式になっており、児童の家庭学習の参考にしやすい。 ・「問題」「観察」「わかったこと」「実験」「結果」などのマークが決まっていて、学習内容が視覚的にとらえやすい。 ・学年に応じたキャラクターのデザインになっているので親しみやすい。 ・QRコードで、内容を動画で確認することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配当学年までの漢字を使用し、配当学年以上の漢字については見開き単位で振り仮名をつけて使用している。 ・「問題をつかもう」、「問題」、「予想と計画」、「実験」、「結果」、「まとめ」が矢印でつながれていて、問題解決の過程を意識しやすくなっている。また、「問題」と「まとめ」が同じ色で示され、視覚的に捉えやすくなっている。 ・安全に対して配慮が必要な場面では、その箇所に「！」マークをつけて具体的に記述し、安全に活動できるよう配慮されている。 ・安全のために配慮することが細かく分類され、「保護眼鏡」、「換気」、「廃液」、「けが」、「やけど」、「強い光」などのマークで示されている。 ・「自然を大切に」マークを設け、環境への意識付けを行っている。 ・単元の導入で、児童の興味・関心を引き出す写真を取り上げるとともに、「思い出そう」ではQRコードで前学年までの学習のポイントが振り返ることができるよう工夫されている。 ・資料「理科の広場」「くらしとリンク」で身近な生活に関連した話題を取り上げ、理科の有用性を感じられるようにしている。 ・登場する児童については、男女の役割を固定せず、児童一人一人が主役で、互いに協力しながら観察・実験を進めている写真やイラストを掲載し、性別、人種、身体的特徴などに配慮している。 ・単元で学習するキーワードや新しく学習した言葉がまとまっており、確認しやすい。 ・「ふりかえろう」は、単元の内容がまとまったノートになっており、児童が家庭学習の参考にしやすい。 ・巻末の「オッターの資料室」では、記録の仕方や話し合いの進め方、ノートの書き方などがまとめられており、児童の参考になる。 ・タブレットを使って、テストを実施することができる。 ・「STEAM」教育を意識できるマークがある。 ・導入の「はじめに考えよう」で考えたことを、単元の最後に「もう一度考えよう」で振り返ることができる。 ・デジタルコンテンツを使って、3年から6年までの内容を確認することができる。